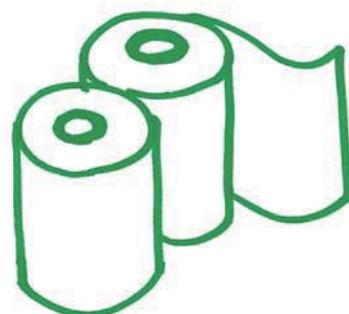
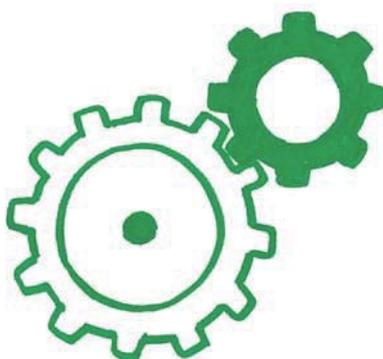
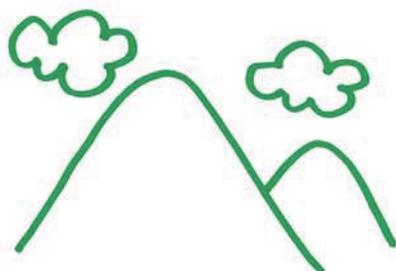


環境・社会
報告書
2012

2011.10.21~2012.10.20



編集方針

当社では 2003 年より『環境報告書』を発行しており、前回（2011 年度）より『環境・社会報告書』として環境面だけではなく、「企業の社会的責任（CSR=Corporate Social Responsibility）」に関する活動についても報告しています。

本報告書では、当該期間の当社の取り組みを「お客様へのかかわり」「環境へのかかわり」「社会へのかかわり」「従業員へのかかわり」として紹介しています。ステークホルダーの皆様カナエを知っていただく一助になれば幸いです。

尚、本報告書作成にあたっては環境省発行の「環境報告ガイドライン（2012 年版）」を参考にしています。

【対象組織】

株式会社カナエ 本社・東京支店・各営業所及び神戸工場・栃木工場

【対象期間】

2012 年度（2011 年 10 月 21 日～2012 年 10 月 20 日）

*尚、一部 2013 年度の内容も含まれます。

報告書発行：2013 年 2 月



【報告に関するお問合せ先】

株式会社カナエ 経営企画部

〒540-6023

大阪市中央区城見1丁目2番27号

クリスタルタワー 23 階

TEL:06-6945-1140 FAX:06-6945-1211

目次

トップメッセージ・・・・・・・・・・2～3

I. 私たちについて

1. コーポレートメッセージ・・・・・・・・・・4
2. 企業理念・社訓・・・・・・・・・・5
3. 事業概要・・・・・・・・・・6
4. 事業領域・・・・・・・・・・7
5. 私たちの果たすべき責務・・・・・・・・・・7

II. 「お客様へのかかわり」

1. 品質への取り組み・・・・・・・・・・8～9
2. CS活動について・・・・・・・・・・10
3. お客様への情報提供・・・・・・・・・・11
4. 事業継続計画（BCP）・・・・・・・・・・12

III. 「環境へのかかわり」

1. 環境方針・・・・・・・・・・13
2. 環境マネジメントシステム・・・・・・・・・・14
3. 環境パフォーマンス・・・・・・・・・・15
 - 事業活動のマテリアルバランス・・・・・・・・・・16
 - 環境指標一覧・・・・・・・・・・16
 - 【環境保全活動の紹介】・・・・・・・・・・17
 - 【環境会計報告】・・・・・・・・・・17～18
 - 【法規制及びその他の要求事項の順守】・・・・18
 - 【環境コミュニケーション】・・・・・・・・・・18
 - 【環境包装プロジェクト】・・・・・・・・・・19
 - 【環境負荷低減商材の開発】・・・・・・・・・・19
4. 2013年度の活動目標・・・・・・・・・・20

IV. 「社会へのかかわり」

1. 関西電力管内の節電対応・・・・・・・・・・21
2. 消費者課題への取り組み・・・・・・・・・・21～22
3. 消費者課題に対応する商品開発・・・・・・・・23～24
4. コンプライアンスへの取り組み・・・・・・・・24
5. 理念教育・・・・・・・・・・25
6. 「みちのく未来基金」への協賛・・・・・・・・25
7. 地域社会への貢献・・・・・・・・・・25

V. 「従業員とのかかわり」

1. 働く環境・・・・・・・・・・26
2. 理念実践プロジェクト・・・・・・・・・・26
3. HS（健康・安全衛生）活動・・・・・・・・・・26
4. 防災勉強会・・・・・・・・・・26
5. 災害への備え・・・・・・・・・・27
6. 次世代育成・・・・・・・・・・27
7. 社員会イベント・・・・・・・・・・27
8. クラブ活動紹介・・・・・・・・・・27

今後のCSR活動の展開・・・・・・・・・・28

トップメッセージ

震災からの教訓

東日本大震災から2年近く経過いたしました。いまだ困難な生活を余儀なくされている被災者の皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。被災地の1日も早い復興をお祈り申し上げます。

当期はこの震災の影響からお客様における前倒し増産の反動による減産や購買体制の見直しによるメーカー選択、外国製品の使用検討などで厳しい環境下でありましたが、反面色々な課題が見えた一年でもありました。製造面では、設備の耐震補強不足が判明し、アンカー補強を機械毎へ設置、キャビネットや保管庫などは転倒防止補強を施しました。BCP対応としては社員への教育訓練や災害対策本部の立ち上げ訓練などを実施し、体制の見直しとしてBCMS(事業継続マネジメントシステム)構築の検討をはじめました。

CSRに関する取組み

近年、お客様の行動指針がグローバルなCSRに関するガイドラインに沿って変化しており、要請をいただく調査依頼からカナエが立ち遅れている側面も新たに増えてまいりました。お客様の要請に応えるべく変革し、今ではほぼ要請に対応できる体制まで仕組みができてきました。全社員への共通認識を深め、浸透させる目的として全社員へのCSR教育を行い、現場の作業員一人ひとりにまで落とし込み、同じ方向に向けた行動ができるように今後も活動の改善に努めてまいります。

環境保全活動への取組み

カナエの生業は包装材料の販売であります。使用されるプラスチックフィルムは使用后、すべてゴミとなります。よってカナエの役割として常に可能な限り廃棄物の量を減らすことに努力する必要があります。震災の瓦礫の廃棄処理量も増大し、処分場も益々限られてきています。

ゼロエミッションへの取組みはカナエとして大きな課題と認識しています。当然、お客様へ販売した材料からも廃棄物が発生しますので、関係するステークホルダーの不要物となる廃棄物にも目を向けた活動を目指してまいります。

社会貢献活動への取組み

昨年度より、カゴメ株式会社様、カルビー株式会社様、ロート製薬株式会社様の3社発起による震災復興支援活動である「みちのく未来基金」に参画させていただきました。東日本大震災において、両親を失った子どもが被災3県で200名超、どちらかの親を失った子どもの数は2,000名近いとも言われております。

甚大な被害をもたらした東日本大震災において、真に復興の礎となるのはこれから育つ次世代の若者たちであり、彼らが夢や希望を捨てずに育つことこそが復興の要となることから、震災遺児に対し、夢や目標を持ち続けながら成長できる環境整備のサポートを長期的に復興支援する活動へ微力ながら支援を続けてまいります。

ステークホルダーの皆さま

カナエは、コーポレートメッセージである「お客様に喜びと感動を感じていただける会社になる」を目指した活動の一環で、今年度はお客様へ当社に対する満足度調査を実施しました。満足いただけたお客様、手厳しいコメントをいただいたお客様もあられ、社内外共にまだまだ改善が必要であると痛感いたしました。

中期経営計画のキャッチコピーは「包装で未来を創る— Exceed Ourselves —」を掲げ活動していますが、よりお客様目線で、より市場に目をむけて考え、行動できる企業を目指しています。キャッチコピーは社員それぞれが自ら考え、自ら行動し、今の自分を打ち破る自己改革も意味しています。カナエは如何にしてお客様に喜びと感動を感じていただけるかを日々研鑽し、良い行動が良い成果に結び付くように全社一丸となって活動いたします。

今後もカナエの取組み及び環境・社会報告書に関しまして引き続き、皆様からの忌憚のないご意見、ご助言を賜ります様よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長
岡本 邦昭

1. コーポレートメッセージ

＜お客様に喜びと感動を感じていただける会社になる＞

当社では企業理念・経営基本方針の基軸にある「顧客満足経営・顧客第一主義」の実現イメージをより具体的に表現したものをスローガンに掲げ、全社一丸となり顧客満足を追求しています。

顧客満足経営を通じて

①顧客に満足いただける品質(商品・情報・受託商品・設備・サービス・社員の資質)の向上を図る。

お客様より支持をいただき、選んでいただける質の高い商品、質の高いサービスなどはどのようなものを明確にし、その実現を図っていきます。

②顧客第一主義という考え方を社員一人ひとりにまで浸透させる。

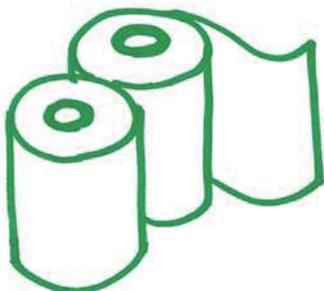
質の高い商品、サービスに対し各部門での具体的検討、作業を通じて顧客第一主義の考え方をそれぞれ社員全員が理解し、その視点で常に自分の業務を見直し、遂行できる風土を培っていきます。

③CS活動を通じて社員の力を結集させ、活力ある集団をつくり、縮小均衡からの脱皮を図り、永続的に発展しつづける基礎をつくる。(ES)

顧客満足経営の強化というベクトルの一本化により、働き甲斐のある社風を構築すると共に活力ある戦う集団をつくり、飛躍できるカナエをつくり、更なる顧客満足を追求していきます。

CS：Customer Satisfactionの略で顧客満足度のことで、企業業績を向上させるための重要な要因です。

ES：Employee Satisfactionの略で社員満足度のことで、CSに深く結びつきます。



2. 企業理念・社訓

私たちの企業理念・社訓には、当社が「企業の社会的責任（CSR）」を果たすためのすべての要素が含まれていると考えています。57期理念・社訓の共通理解と浸透を推進するために、当社の理念の教科書である『鼎心』を作成しました。これからも一層私たちの企業理念・社訓を大切に、企業の社会的責任を果たすべく努力してまいります。

企業理念

■顧客第一主義に徹する

すべての事業はお客様と共に始まり、お客様と共に歩んでいきます。私たちはいかにお客様に満足していただけるかを、常にお客様の視点で考え行動します。そしてお客様との信頼関係を強くしていきます。

■健康と豊かな生活を創造し、社会に貢献する

健康を維持し、快適で豊かな生活をするために必要なあらゆるものに、私たちは関心を持ちます。そして、その中で私たちにできることはないだろうかと考え続けます。そのような質の高い商品や質の高いサービスを創出し、社会に貢献することが、私たちの使命です。

■情報と知恵を活かし、顧客満足を創造する

お客様のニーズをはじめ、市場動向や新商品等の情報と社内外に蓄積された開発・製造技術を知恵によって組み合わせ、お客様に満足していただける質の高い商品、質の高いサービスを生み出していきます。

■社員の人生の充実を重んじ、希望と誇りと働き甲斐のある企業にする

企業のために人がいるのではなく、人のために企業があるのだと考えます。カナエで働くことを通じて、私たちは「希望」と「誇り」と「働きがい」をキーワードとした企業づくりをします。将来に向けて充実感と達成感を持って働ける環境をより強固にしていきます。

■地球環境にやさしい企業活動を行う

これまで培ってきた包装技術の活用や製造部門の効率化推進などにより、環境負荷低減商品の開発及び拡販を行います。又、カナエの事業特性を活かした環境保護活動を推進し、美しい地球を守ります。

■企業の社会的責任を果たしていく

今日の企業は社会から「企業の社会的責任」（CSR）が強く求められています。「企業の社会的責任」とは、企業は「経済的」側面だけでなく、「環境」や「社会」的側面に対しても社会の一員としてバランスよく責任を果たしていくべきという考え方で、企業価値を高める大切な活動であります。ステークホルダー（利害関係者）の顧客、取引先、株主、社員、地域社会、官公庁、金融機関などの方々に向けた活動を通して、カナエは、すでにCS、環境などの活動に取り組んでいますが、さらに高い意識を持って活動し、「企業の社会的責任」を果たしていきます。

社訓

■ニュー・ニューフロンティア精神をもちとう

常に新しいことや難しいことに積極的にチャレンジする考え方をもち、行動します。

■見るよりも見られることに徹しよう

常に社会や人から見られていることを意識し、自分の行動が常に正しいか、ベストかを意識し、行動します。

■実るほど頭をたれる稲穂かな

会社も社員も成長すれば成長するほど、謙虚な気持ちで社会やお客様に対応していく。

■独創性を追求しよう

他社にない新しい製品・競争力のある製品・サービス・市場を創造すると共に、これらを担う創造的な人材を育てる。また、常に創意工夫し、現在行っている活動の改善を図り、精度・品質の向上を目指します。

3. 事業概要

～お客様のパッケージへの「想い」をカタチに～

3つのチカラで、安心を包む

包装材料、包装機械、包装加工、この3つが調和してはじめて「商品」が完成すると考えています。

当社の強みは、先達から受け継がれてきた「包装材料を知っている機械屋」「機械を知っている包装材料屋」、「包装材料と機械を知っている加工屋」であることと自負しています。包装材料メーカーとのネットワークや各種情報の分析・提供力に加えて、研究開発部門、受託包装加工の専用工場、グループ会社に機械を専門に扱うカナエエンジニアリングを保有しているのはそのためです。受託包装加工ではトイレタリーを主業務としたカナエテクノス、食品を専門とするカナエシーエスパックとのグループの強みを活かした連携により、包装へのトータルなアプローチを実現しています。今後も全社員がプロの意識を高め、当社独自のビジネスモデルに磨きをかけ『お客様のパッケージへの「想い」をカタチに』してまいります。

①包装材料「包む」をコーディネート

ニーズを多角的に分析し、最適なパッケージをご提案します。

豊富なケーススタディが身近にあることー包装加工、包装機械を自社で手がけるカナエの強みは、独自のパッケージ対応にも活かされています。お客様のニーズを軸に、包装材料の設計から包装形態、安全衛生、さらには生産システム適性にいたるまで、包装の全プロセスを多角的に分析、蓄積した情報とノウハウを活かして、最適なパッケージング提案を行っています。また、国内外 500 社以上のメーカーとのネットワークにより、多彩な包装材料を安定供給しています。オリジナルの新規包装材料・形態の企画提案や、各材料メーカーとの共同開発を通じて、市場にはないユニークなパッケージの創出にも力を注いでいます。



②包装機械「包む」をバックアップ

現場の声と「ものづくり」が直結ー「使用する立場、視点」に立った提案が、カナエの包装機械事業の大きな特長です。包装材料との適性や内容物の特性に加え、使用段階で生じやすい不具合や使い勝手を、包装加工事業での経験・ノウハウに基づいて徹底的に吟味。機械と包装材料の専門スタッフを交え、加工・包装工程を主体とした製造工程に最適なシステムの企画、設計を行っています。有力包装機メーカーの包装機械の販売とともに、独自に企画・設計した包装機械製作にも取り組み、システム・エンジニアにおけるトータルサポートを実現しています。



③包装加工「包む」をカタチに

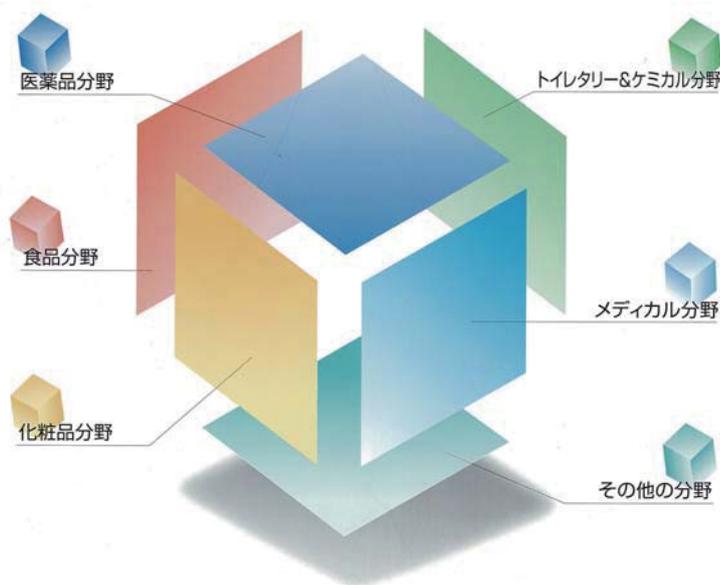
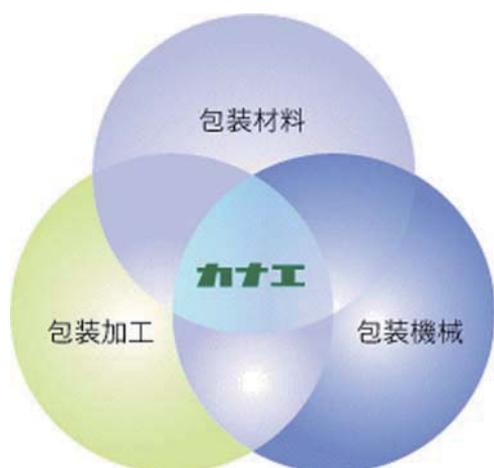
独自のノウハウ技術で商品価値を高める包装加工業務ーお客様から委託を受け、包装加工を行うコントラクトパッケージング（受託包装）と、最終製品まで仕上げるコントラクトマニュファクチュアリング（受託製造）。いずれにおいても、カナエの各種業態許可を得た技術力、品質管理力、生産能力が最大限に活用されています。分野ごとに独立した包装加工工場を保有し、最新の設備と厳しい品質管理のもと、PTP包装、ストリップ包装、三方・四方シール包装、スティック包装、特殊包装など、多種多様な形態の包装加工に対応しています。



4. 事業領域

当社では、事業領域を「Life care & Produce」と定めています。生命をまもり、豊かな生活を演出する包装のカタチを追求し、今日まで医薬品や化粧品、食品など幅広い分野において事業を展開してきました。

これからも、包装を通じ暮らしのあらゆるシーンに新しい価値を生み出すことによって、人と社会に貢献していきたいと考えています。



5. 私たちの果たすべき責務

CSRに関する国際規格のISO26000が発行されてから、多くの企業がガイドラインに沿った取組みを開始され、事業者のみならずサプライチェーンに向けたCSR購買の位置付けにより、様々な要望や要請が増えてきています。近年、特にお客様からの要求事項としてアンケートや査察も増えています。

当社は商社の立場と加工メーカーの立場から、お取引先様とお客様とのパイプ役としてサプライチェーンへも環境保全やBCPに関する課題を整理し、お取引先様に対しても管理状況の確認なども行っています。また、社内においては全社員に向けたCSRに関する認識を高める為の教育啓蒙も行い、お客様の要望・要請にお応えできるように対応しています。

「包装」という本業を通じて「企業の社会的責任（CSR）」を果たしていくことが私たちの責務だと自覚しております。

1. 品質への取り組み

(1) 品質方針

【品質方針】（2010年11月8日改定）

- 1) お客様の視点で考え、当社の技術を結集してお客様の期待を超える品質をお届けする
- 2) お客様に提供する商品の安全・安心を保証する
- 3) 常に商品価値向上に向けた提案を行い、お客様とともに高品質商品を創出する
- 4) 品質・技術に裏付けられた迅速な対応によりお客様に感動を感じていただく

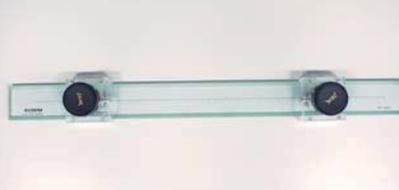
(2) 品質保証体制

◆包装材料に関する品質保証体制

当社は、厳格に管理された品質管理・製造管理の下で製造された、安全安心な包装材料をお客様にお届けしています。なお、品質異常が認められた場合は、原因の追究と対策は勿論、対策の実施状況についての継続的な確認や、水平展開を実施する等、お取引先様と相互に意思疎通を図って品質向上に努めています。

～7つ道具のご紹介～

品質保証部では7つ道具として様々な機器を保有しています。品質異常発生時に、直ちに現場で初期対応が可能となります。またお取引先様へ具体的なデータを提供することにより問題解決までの期間を短縮し、お客様満足に貢献します。

①ミラーレスカメラ	②ガラススケール	③デジタルノギス
		
④厚み測定機	⑤顕微鏡（据え置型）	⑥マイクロスコープ（携帯用）
		
⑦フィルムスケール		
		

◆生産品質システムに関する品質保証体制

包装加工業務においては、GMP の順守はもとより、製造管理・品質管理を厳正に実施し、お客様にご提供する製品の品質を保証するため品質保証体制の改善と強化に日々取り組んでいます。



(3) 「なぜ!? 何故!? 活動」

当社の包装加工部門を担う栃木・神戸工場では、「なぜ!?何故!?活動」という小集団活動に取り組んでいます。工場の職場単位で「改善目標」をテーマとして活動を開始し、各工場ですべて年2回、経営層や関係者を招いて活動成果の発表会を開催しています。優秀なグループは表彰され、互いの工場へ訪問して発表することで成功事例の共有化も行っています。

現場における多くの知恵を結集して“生きた改善に繋げていく”こと、また多くの社員がグループ活動のリーダーを経験することで“真のリーダーが生まれてくる”ことも狙いとしています。

栃木工場での発表会風景	神戸工場での発表会風景

(4) 「品質づくりプロジェクト」

56期より工場の「品質レベルの向上」と社員の「品質意識の向上」を目指して、「品質づくりプロジェクト」が発足しました。「毛髪混入防止」や「クレーム撲滅」などの課題をプロジェクト化し、「なぜ!?何故!?活動」とは別のグループ編成にて活動しています。これら二つの改善活動が両輪となって、弊社の工場における「生産力」の基盤となっています。

2.CS活動について

(1) CSアンケートの実施

本年度は、当社の3つのCS目標「お待たせしない対応の実践」「プロの仕事の提供」「CSマインドの育成」に基づく社員の対応が、どの程度お客様に届き、実感され、ご満足頂けたかどうかについて、CSアンケートを実施しました。実施方法として、郵送での書面調査とお客様へ訪問して直接話をお聴きするヒアリング調査を行いました。結果としては、お客様の実感度は未だ低いものの、総合満足度は徐々にスコアアップしており、“3つのCS目標の実感度が高まれば、お客様の満足度も高まる”ということも判りました。

お客様からの具体的なご要望としては、「価格低減に繋がる提案件数の増加」や「依頼事項に対するさらなるスピード化」などがありました。社内の部門間連携を強化し、お客様からのご要望にお応えできるよう取り組んでまいります。

引続き、現状の3つのCS目標は継続実践し、加えてお客様に「安心感」と「信頼感」をもっていただけるよう「有事の対応」を新たなCS目標として追加いたしました。具体的には事業継続計画（BCP）及び事業継続計画マネジメント（BCMS）への取り組みを進めてまいります。

(2) JOYカード

当社では、5年前よりお客様から頂いたお褒めの言葉や感謝された内容を「JOYカード」として社内で投稿を集め、共有化し、CS活動の実践レベルを測る指標として位置づけしています。今期は目標の700件を大きく上回り、お客様からの喜びの声が1,000件以上も集まりました。58期もたくさん「JOYカード」をお客様にいただけるよう日々の業務に努めます。

お客様の喜びの声（JOY）を集め、社員全員で共有し、横展開することによって、新たな「JOYカード」が生まれてきます。このような良いスパイラルをつくり、「お客様に喜びと感動を感じていただける会社になる」というコーポレートメッセージを、お客様に心から実感していただくことを目指して、今後もCS活動に取り組んでまいります。

(3) 今後の取り組み

次回のアンケート調査は、お取引先様へ実施することとし、現状の当社に対する満足点・不満足点を調査し、経営基本方針に謳われています『取引先様との関係を深め、共存共栄を図る』ための具体的な方策について検討を行います。

これからも継続して、アンケート調査やJOYカードによるお客様の声を分析し、お客様のニーズを理解し、「お客様の期待を超える」「お客様が感動される」行動の標準化と実践を目指し、新たな価値を創造し、提供できるようCS活動に取り組んでまいります。

3. お客様への情報提供

(1) 海外情報の収集、提供

当社では海外におけるパッケージ情報の収集と提供に積極的に取り組んでいます。欧州・米国等海外で開催される展示会への参加や包装関連企業の視察を行い、市場や法規制の動向などについて情報の収集と提供に努め、包装製品のサンプル展示も行っています。

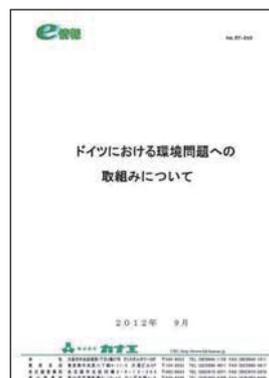


(2) P情報

お取引先様から提供いただいた新製品や開発製品のパッケージ情報、並びに当社のオリジナル開発品の情報をリーフレットにして、毎月「P情報」として資料紹介しています。環境負荷低減商品および機能性パッケージなどの包装材料、化成品、検証機器に至るまで幅広い範囲でまとめ、ご要望に応じて、サンプルの提供など個別対応をさせていただきます。

(3) e情報

「P情報」と同様に環境に対する情報をまとめた資料として、「e情報」を毎月発行しています。環境包装における先進国や日本の先進企業の取り組み事情、新しい環境包装の事例などを紹介しています。「e情報」はカナエのホームページでも閲覧可能です。



4. 事業継続計画（BCP）

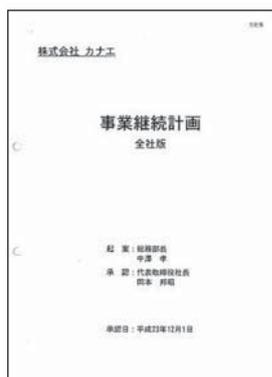
当社では、地震等の自然災害、新型インフルエンザ・パンデミックなどの緊急事態発生時に、被害の最小化と、早期の事業復旧を目的とし事業継続計画（Business Continuity Plan）を策定しています。緊急事態はいつ発生するか予想ができないため、発生時に想定される状況を念頭におき、当社のすべての事業所に勤務する従業員、当社で働く協力会社の従業員、従業員ばかりではなく来社されているお客様、その他当社に出入りするすべての方の安全の確保と当社の事業を継続していくための事前の準備を進めています。

当然ながら、計画は策定しただけでは意味がありません。今後は、有事の際、計画に則り、また状況に応じて臨機応変に判断・行動できるよう継続的にトレーニングを実施するとともに、平時の対応としてリスクの抽出とリスク削減のための活動を計画的に進めてまいります。

「災害に対して強い企業になる。」大きな災害に見舞われたとしても、いち早く事業を再開し、お客様へサービスを提供することがお客様への責任であり、「社会的責任を果たすこと」にもつながるものと考えています。

<当期の活動実績>（関連「V. 従業員との関わり」P26・P27）

- 各事業所への災害用備品の設置
衛星電話、災害救助備品、非常用食料（飲料水・アルファ米・パンの缶詰）、毛布等を配置しました。
- セコム社 安否確認システム導入と運用訓練
セコム社の安否確認システムを導入し、いざという時に使えるよう数回の運用訓練を実施しました。
- 災害対策本部設置机上訓練
東日本大震災クラス地震を想定し、本社に災害対策本部を立ち上げる訓練を実施しました。訓練を通してはじめて気づいたことも多く、今後マニュアルの改訂や次の訓練にも活かしていきます。
- 従業員用防災マニュアル及び緊急時カードを配布
緊急時の対処方法を記したマニュアル及び携帯用のカードを作成、全従業員へ配布しました。
- 事業継続計画（BCP）勉強会の開催
全事業所、全従業員を対象に事業継続計画に関する勉強会を開催いたしました。有事の際の自身の身の守り方（自助）及び事業継続への意識づけと、当社の災害に対する当社の備えを理解してもらうことが狙いです。



防災教育及び消防署指導による
避難訓練・消火訓練



「地球環境にやさしい企業活動を行う」を企業理念に、
当社は環境保全活動を行っています。

1. 環境方針

<環境理念>

当社は、<豊かな自然に恵まれた地球>、その環境を永遠に保っていくことが我々人類の果たすべき使命であると自覚し、環境に配慮した製品造りを行い、良き社会の一員として地球環境にやさしい企業活動を行います。

<行動指針>

1) 総合包装企業として包装資材及び包装機械の開発販売並びに受託包装加工を事業としている当社は、エネルギー使用に起因する地球の温暖化、容器包装廃棄物による地球の荒廃等の地球環境をとりまく諸問題を真摯に受け止め、当社の企業活動から生じることが環境汚染の発生を予防し、環境への影響を可能な限り減少させるための改善に努力します。

- ① 容器包装廃棄物の削減とリサイクル化の推進
- ② 省エネルギーの推進（CO2 排出量の削減）
- ③ 環境負荷低減製品の拡販及び開発
- ④ 環境に負荷の少ない製品の製造
- ⑤ 業務効率化等プラス側面の取組み

上記事項の改善のため環境目的及び目標を設定し、その実現に向けた改善プログラムを策定、実施します。そして定期的にその達成度を確認し、その見直しを図り、これにより環境保全のため継続的改善に努めます。

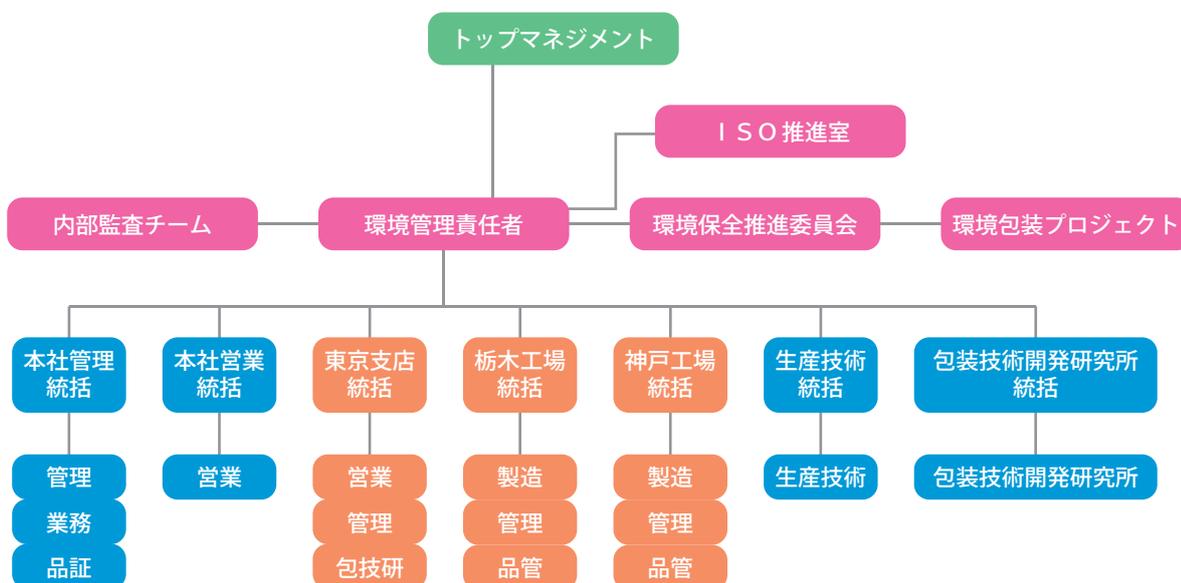
- 2) 当社は、事業活動に伴い適用されるあらゆる環境関連の法規制及び当社の同意した環境上のその他の要求事項を順守します。
- 3) 当社は、この環境方針を全社員又は当社のために働く全ての人に周知徹底させるために教育啓発活動を実施します。
- 4) 当社は、一般の人からの要求に応じこの環境方針を提供します。

2. 環境マネジメントシステム

<ISO 14001 の運用管理状況>

年月	経緯
2002年3月	関東地区(東京支店、栃木工場)にて当社として初めて認証取得
2003年3月	本社地区(関東地区を除く全部門)にて認証取得
2004年3月	関東地区と本社地区を統合し、当社のEMSを構築
2006年3月	初めての更新審査を受審し、認証継続が承認される
2009年3月	2回目の更新審査を受審し、認証継続が承認される
2012年3月	3回目の更新審査を受審し、認証継続が承認される

<環境保全推進組織>



<部門長スキルアップセミナー>

2012年10月に栃木工場、12月に本社に外部より講師を招いて、全事業所のISO部門長と所属部署の管理職を対象に、「EMSを経営戦略につなげるためのリーダーシップ」と題した勉強会を開催しました。2回の勉強会で合計68名の参加となりました。



3. 環境パフォーマンス (2012年の活動目標と活動実績)

項目	目標	実績	達成度
CO ₂ 排出量削減	工場のCO ₂ 排出量 2010年比 2%削減 ※工場の稼働によるCO ₂ の変動を加味し、 原単位(生産金額)で計算しています。	工場のCO ₂ 排出量 2010年比 12%増加 1. 省エネルギーに繋がる設備の導入 2. ノー残業デー、クールビズの活動実施	×
	オフィスのCO ₂ 排出量 2010年比 2% 削減	オフィスのCO ₂ 排出量 2010年比 24%削減 1. デスクライトを設置し、昼間の照明をOFF 2. ノー残業デー、クールビズの活動実施	○
廃棄物削減	埋立て廃棄物量 2010年比 4%削減 ※工場の稼働による廃棄物の変動を加味し、 原単位(生産金額)で計算しています。 PTPなどの廃棄物を埋立て処理からリサイ クル処理に変更	埋立て廃棄物量 2010年比 20%削減	○
環境負荷低減商品 の開発	環境にやさしい包装商品を 7 件開発	環境にやさしい包装商品を 4 件開発 環境にやさしい包装商品を開発するための情報 収集を実施	×
環境負荷低減商品 の拡販	年間 8,500 万以上の販売	実績：年間 8,578 万円の販売	○
環境マネジメント の推進	EMS 手法に沿った継続的改善活動を ISO 推進室が全部門に対して推進する	内部監査、外部監査で重大な指摘もなし、目標 達成に向けて推進活動を推進	○
環境に負荷の少ない 製品の製造	包装機械の稼働率・収率の向上	栃木工場・神戸工場の包装機械の稼働率、収率 ともに改善活動実施	○
環境教育の推進	1. 全社員を対象とした勉強会を 年 2 回実施 2. 環境情報を社内報に掲載し、 全社員へ 3 回の啓蒙	勉強会を 1 回実施 社内報に 4 回の啓蒙を実施	×
仕入先、委託先へ の環境保全活動実 施の啓蒙	環境保全活動への取り組み先が新たに 1 社以上増える	仕入先様に環境アンケートを送付し、委託先様 に対しては啓蒙を実施し、取り組み先が新たに 1 社増加した	○
法規制及び当社の 同意した環境上の 要求事項の順守	法規制の動向を常に注視し、規制事項 の順守を行うべく、3ヶ月に一度、法 規制改訂を調査し、順守状況の確認	11月、2月、5月、8月に各事業所の法規制順 守の確認を実施。法規制の改訂についても半年 に一度、実施した	○
業務効率化等プラ ス側面への取組み	10 部門で業務の効率化活動を実施、 全ての部門で業務効率化を図る	10 部門で業務効率化活動を実施し、10 部門と も、効率化できた	○

※CO₂の排出量については、環境省の『温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル』をもとに算出しています。
電力・ガスについては、それぞれ公表されている各社のCO₂排出係数(2010年版(調整後))を使用しています。

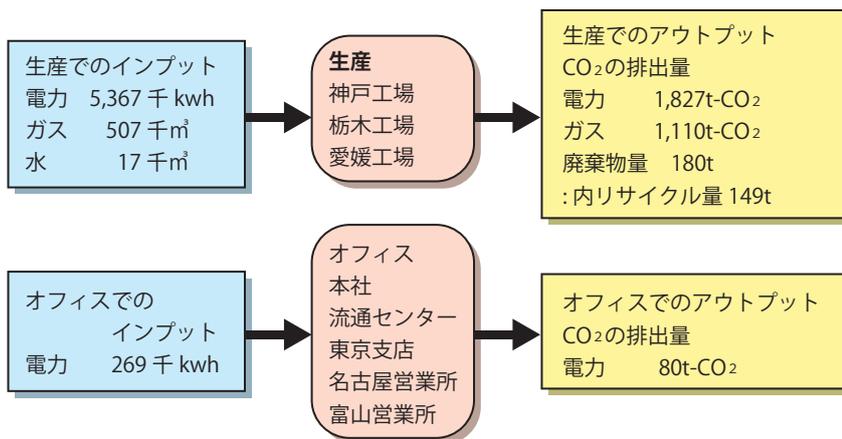
事業活動のマテリアルバランス

当社の生産とはお客様から原材料をお預かりし、内容物を包装する受託加工を行うことです。

「生産でのインプット」の水は製品原料として使用しています。

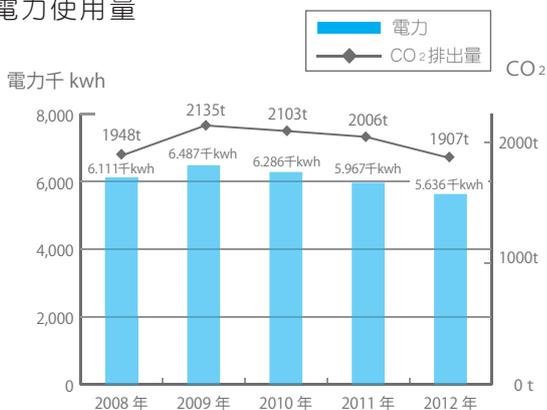
※CO₂の排出量については、環境省の『温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル』をもとに算出しています。

電力・ガスについては、それぞれ公表されている各社のCO₂排出係数（2010年版（調整後））を使用しています。

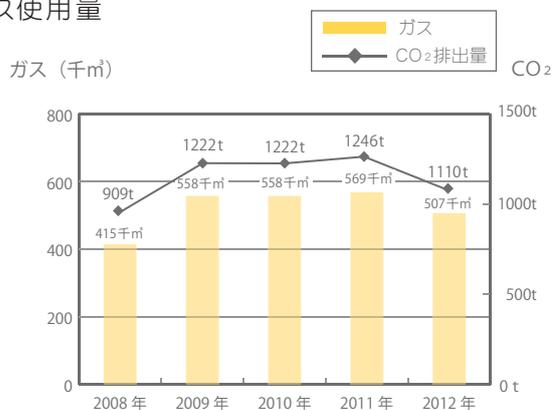


環境指標一覧

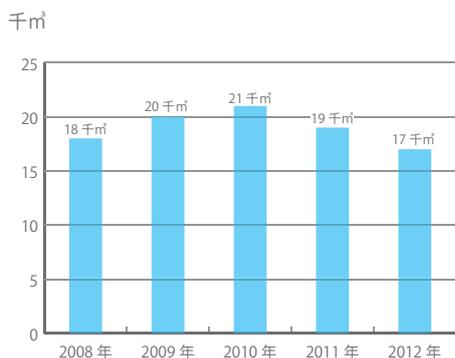
電力使用量



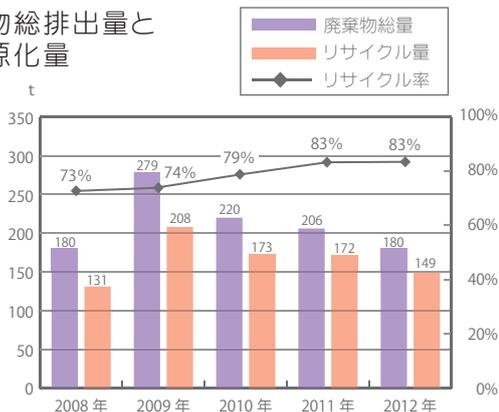
ガス使用量



水使用量



廃棄物総排出量と
再資源化量



【環境保全活動の紹介】

当社の事業活動における電力使用量、ガス使用量、水使用量、廃棄総物量ともに削減しました。電力・ガスについてはボイラーの稼働の効率化、廃棄物については分別の徹底、水使用量削減については、吸収式冷凍機の2台稼働条件の見直しなど活動を実施しました。

①省エネルギーの推進

毎年、当社全体で実施していますクールビズ以外に、関西電力管内では電力供給量が不足する問題もあり、7月～9月の間、本社で夏の節電運動を実施しました。主な内容としては、本社では日中執務室内を消灯し、LEDデスクライトのみで業務活動を行い、空調の使用時間を一時間削減（業務開始30分後に稼働、終業30分前に停止）、また、1ヶ月に一度、ノー残業デーを実施し、7月～9月の期間で昨年と比較すると約16%削減となりました。

また、栃木工場では電力削減のため、室外機にサンシェード（日よけ）をまき、室外機のエネルギー効率を減らす活動を実施しました。室外機の電力使用量を昨年と比較すると約10%削減となりました。



本社オフィス日中は室内電灯を消灯、LEDデスクライトを使用



サンシェードの設置（栃木工場）

②リサイクルの推進

神戸工場から出される廃棄物の一部はこれまで埋立て処理をしていましたが、2012年9月に廃棄処理場を変更し、サーマルリサイクルに変更しました。今後は、廃棄物の分別活動の徹底、マテリアルリサイクル化を検討し、80%で推移していたリサイクル率（2012年は83%）をさらに向上させるべく、活動を実施してまいります。

【環境会計報告】

当社では、環境保全のための投資や費用を定量的に把握し、その投資効果や費用対効果を知るために、環境会計を導入しています。2011年までは、製造部門である、栃木工場・神戸工場を対象に集計した環境保全コスト並びに投資額を掲載していましたが、2012年より、本社・流通センター・東京支店・名古屋営業所・富山営業所を対象範囲に加え拡大いたしました。

対象期間・集計範囲

集計期間：2011年10月21日～2012年10月20日

集計範囲：栃木工場・神戸工場・本社・流通センター・東京支店・名古屋営業所・富山営業所

集計方法：環境省「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に集計

集計結果

環境保全コストの分類		投資額（千円）	費用額（千円）
1) 事業エリア 内コスト	①公害防止コスト	—	13,606
	②地球環境保全コスト	1,550	18,933
	③資源循環コスト	—	12,944
2) 上・下流コスト		—	227
3) 管理活動コスト		—	22,008
4) 研究開発コスト		—	6,137
5) 社会活動コスト		—	—
6) 環境損傷対応コスト		—	—
合計		1,550	73,855

主な投資の内容

事業所	投資の内容	投資額（千円）
神戸工場	蒸気配管保温工事 (省エネルギー)	600
	冷却塔インバータ化工事 (省エネルギー)	950

【法規制及びその他の要求事項の順守】

法令の順守は社会に支えられてこそ持続可能な企業にとって最低限の責務といえます。当社に適用される法令はもちろん、関連する法令の順守も常に意識し、2012年も活動しました。

当社に適用される環境関連法令は以下の通りです。

- ①廃棄物関連：「廃棄物処理法」
- ②リサイクル関連：「容器包装リサイクル法」、「家電リサイクル法」、「建築資材リサイクル法」
- ③騒音、振動関連：「騒音規制法」、「振動規制法」
- ④水質関連：「下水道法」、「水質汚濁防止法」、「浄化槽法」
- ⑤その他：「省エネ法」、「消防法」、「工場立地法」、「フロン回収破壊法」、「電気事業法」

さらに関連の条例も順守対象となります。

環境関連の法規制は世界的な環境保全推進の中で、頻繁に改正が実施されるため改正情報を早急に把握することが必要です。当社では年4回、関連法規制改正の最新情報を調査し、順法の定期評価を実施しました。

【環境コミュニケーション】

ISO活動の一環として、お取引先様に環境保全についての啓蒙活動を実施しました。生産企画部門：14社の製造委託先を訪問し、環境保全活動の推進と環境法規制の順守確認を行いました。東京支店管理部門：主要取引先様10社に環境保全のアンケート調査を行い、その後、お取引先様にお越し頂き、品質向上と環境についての勉強会を行いました。

本社品質保証部門：お取引先様に品質向上、不良品の発生防止に向けての啓蒙活動を月4件以上、活動しました。

【環境包装プロジェクト】

営業部門における環境負荷低減活動を支援すべく設置されましたのが「環境包装プロジェクト」です。環境包装プロジェクトでは、営業活動をフォローするため、「お客様への環境負荷低減情報（e情報）の作成と提供」、「環境負荷低減開発の推進」等の活動を実施しています。さらに、環境負荷低減商品とは何かを明確にするため、当社独自の評価基準の設定も行ってきました。この評価基準に適合した商品には、当社オリジナルエコマークを付与し、営業の環境負荷低減活動の推進に寄与しています。その効果も最近、環境負荷低減商品販売額に明確に表れてきています。今後、さらにお客様の環境対応活動にお役に立てるよう、「環境包装プロジェクト」の役割の幅を広げたいと考えています。

～現在の活動内容～

1. 「お客様への環境負荷低減の支援」
環境情報『e情報』の作成と提供
ステークホルダー情報収集（CSR情報含む）
2. 社内イントラネット「環境のページ」運営
情報の集約と管理
資材課、包装技術研究所の環境負荷低減活動のフォロー
3. 社内勉強会の開催
営業員を中心とした環境負荷低減商材の勉強会
4. 外部講習会等への参加
外部講習会や展示会等への参加を通じた環境情報の収集



<毎月発行されるe情報の一例>



当社オリジナルの
エコマーク

【環境包装負荷低減商材の開発】

当社では、包装技術開発研究所が毎年、環境にやさしいパッケージを開発しています。

目標値	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
完成件数	1件	5件	5件	2件	4件
商品名	コスモ高速化	① 液体パウチシーラントの薄肉化 ② 吊り下げ型コスモパック ③ 自立型コスモパック ④ コスモ PTP コンパクト化 ⑤ 生分解性プラ 減菌プリスター	① モイストチャッチ ALAL-PTP ② CAPパック ③ PLA ラミネート ④ エコボトル ⑤ ピールパウチ	① PLA プリスター ② PTP アルミ蓋材	① 粉体計量パウチ ② GS PLA の包材としての評価 ③ 植物由来 LLDPE ④ エルスマート

◆開発品のご紹介

<粉体計量パウチ>

金属缶に対し、チャック付スタンディングパウチは重量を軽減できます。更に、折り畳むことが可能ですので、廃棄時に容積を削減できます。

また、スプーン単体で擦り切りによる計量ができるものを開発いたしました。



4. 2013年度の活動目標

項目	2013年度の取り組み	2013年度の目標
CO ₂ 排出量削減	工場 1. 節電活動の継続 2. 太陽光発電の導入	2010年比3%削減*1
	オフィス 1. 節電活動の継続 2. 新たな節電活動の実施	2010年比30%削減*1
廃棄物削減	1. サーマルリサイクルから マテリアルリサイクルに変更できるか検討 2. 工場での分別活動の徹底	2010年比6%削減
環境負荷低減商品の開発	1. 環境にやさしい包装商品の情報収集 2. 開発テーマ件数のアップ	環境にやさしい包装商品を9件以上開発
環境負荷低減商品の拡販	お客様に「環境にやさしい包装商品」を提案する	環境にやさしい包装商品を年間10,000万円以上販売
環境マネジメントの推進	全ての目標が達成できるよう推進する	2013年の環境目標の全目標が達成
環境に負荷の少ない製品の製造	2012年では取り上げていない包装機械の稼働率・収率の向上活動を実施する	包装機械の稼働率・収率の向上
環境教育の推進	1. 全社員へ向けた環境教育の継続 2. 新たなテーマでの環境啓蒙を実施する	1. 全社員を対象とした勉強会を年2回実施 2. 環境情報を年3回社内報に掲載し、啓蒙教育を行う
仕入先、委託先への環境保全活動実施の啓蒙	1. 取引先への環境アンケートの送付の継続 2. 委託先への環境啓蒙の継続	環境保全活動への取り組みが新たに2社以上増えている
法規制及び当社の同意した環境上の要求事項の順守	3ヶ月に一度の法規制改定調査と順守状況の確認の継続	法規制の動向を常に注視し、規制事項の順守を行う
業務効率化等プラス側面への取り組み	業務効率化に絡めてコスト削減も含んだ活動を展開する	業務効率化により、環境保全の推進とコスト改善の両立ができています

*1：電力・ガスについては、それぞれ公表されている各社のCO₂排出係数（2010年版（調整後））での評価結果による目標値です

1. 関西電力管内の節電対応 (本社・神戸工場・流通センター)

今年度は、原発の再稼働問題による電力不足の解消のため、関西方面にも節電の要請がありました。

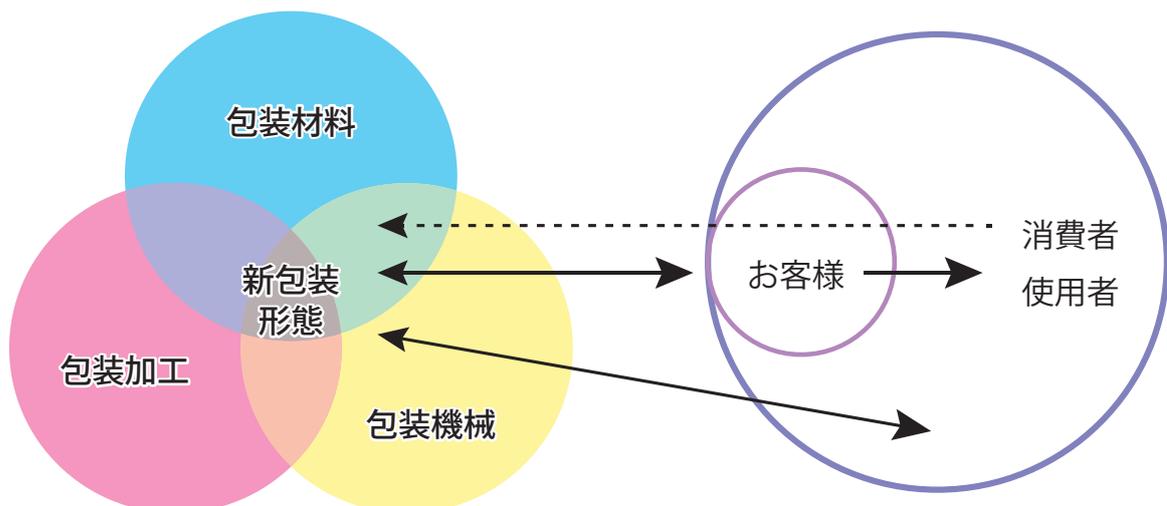
具体的には大阪の本社事務所及び神戸工場が該当しますが、施設の立地場所から計画停電の適用外区分となりました。本社はテナントビルの節電実施もあり、また独自に節電計画を立案・実施し、LED スタンド、サーキュレーターを導入と、空調の使用制限や、昼間の執務室の消灯などを実施し、神戸工場も同様に消灯と省エネ設備の導入などにより、節電対策を行いました。

また、物流倉庫の流通センターでは、遮熱フィルムを倉庫内の窓に設置し、事務所の空調、照明など本社同様の節電に対応することでオフィスの大幅電力削減に寄与しました。

2. 消費者課題への取り組み

マーケティング力の強化

当社の強みである「包装材料」「包装加工」「包装機械」の3要素でトータルサポートし、お客様へご提供させていただいています。この既存のサポート体制を更に強化するとともに、消費者・使用者視点で開発を進める為の「マーケティング力」を強化し独自の能力を高めてお客様の課題解決に対応したご提供を続けてまいります。



大学との共同研究及び共同開発

大学の薬学部と薬剤包装と使用性について共同で研究を行っており、現状の問題点や医師・薬剤師・患者から得られる情報をもとに新しい包装形態・包装機能の開発に取り組んでいます。

ユーザー（使用者、消費者）ボイスの収集と活用

新たな開発品の検討にあたっては千葉県を中心に26店舗の調剤薬局を展開している企業の協力を得て、薬局の薬剤師の方々へのアンケート調査や共同開発を実施しています。また、一般ユーザーに対してもインターネットを利用してアンケート調査できるルートを構築し、CRSF機能（Child Resistant Senior Friendly）、表示性、携帯性、服薬順守などを評価対象とし有効性や使用性の検証を行い、使用者の立場としての意見を考慮して開発に取り組んでいます。

学会での発表

当社での研究成果や共同研究、海外での先進事例など「包装」に関わる情報を、学会で機会をいただき発表しています。本年度は、「日本薬剤学会 第27年会 実践薬剤学 ～理論、技術、そして・・・～」医薬品包装シンポジウム「Patient Compliance・・・いま包装ができること」の中で『コンプライアンスパッケージの効用と国内展開への期待』と題して発表いたしました。

また、誤飲対策 PTP の共同研究の成果を、10月に開催された第22回日本医療薬学会にて、パネル発表をいたしました。



インターフェックス（2012）への参加

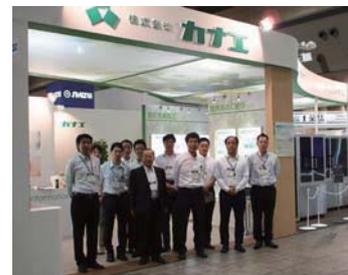
今回の展示会の規模は主催者発表によると、過去最多の891社が出展し、3日間の総入場者数は33,038名（昨年比：13%増）を数えました。弊社のブースでは、「お客様のパッケージへの『想い』をカタチに」をキャッチコピーに「受託製造ゾーン」に出展し、コスモパック®GP（散剤用のアルミ成形ワンドーズパッケージ）の自動包装機「DFS」と「バーコード検証機 Omni（カメラタイプ）」の展示およびデモンストレーションをはじめ、医薬品包装に関する開発品を中心とした各開発品や海外技術導入品、環境負荷低減を目的としたパッケージ、受託包装加工に関する弊社オリジナル包装形態や新商品などを展示いたしました。たくさんのお客様にご来訪いただき、貴重なご意見やご要望を賜りました。



コスモパック®GP
（散剤用のアルミ成形ワンドーズパッケージ）



バーコード検証機
Omni（カメラタイプ）



3. 消費者課題に対応する 商品開発

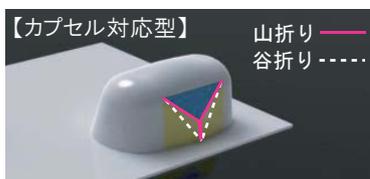
PTP は大変普及した医薬品パッケージですが、最近では包装材料等の進化や錠剤の小型化もあり、使用者から「開けにくい」とクレームが出る事もあります。開封だけをとつても若年層から高齢者まで様々な階層に向けた開封性を考慮しなければなりません。当社では“現在と同じ生産ラインで作れる”をコンセプトに、少しでも開け易い形状の開発として「易開封PTP」に取り組んでいます。

また乳幼児による誤飲への対策も命に関わる大きな課題です。Dose Guard(CRSF ラベル)は、粘着剤付のラベルを付与することにより、既存の PTP 製品の規格を変えずに CR(Child Resistant)：幼児の悪戯防止機能を持たせることが可能な製品です。

様々なタイプの「易開封PTP」

- ①カプセル対応型易開封PTP
- ②リブ付易開封PTP(錠剤対応型) <特許出願中>
- ③リブ付カプセル対応型PTP 上記①②の組み合わせ
- ④ドーム型易開封PTP <特許出願中>

①カプセル対応型PTP



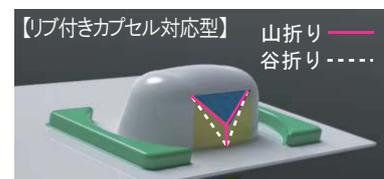
ポケット部の成形加工により、押す力を効率的に伝える。

②リブ付易開封PTP



ポケットの両脇に成形を行うことで、テコの原理を利用し開け易くなる。

左記①②の組み合わせ



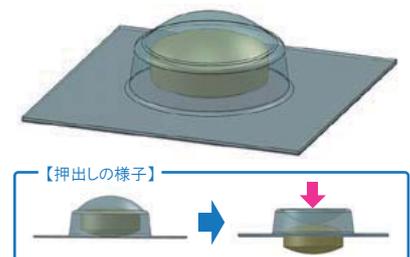
左の2タイプを組み合わせせたタイプ。より開封性が向上する。

左奥①カプセル対応型易開封 PTP
手前②リブ付易開封 PTP
右奥③リブ付カプセル対応型 PTP



②「リブ付易開封 PTP」のシートイメージ
(手前が「リブ付易開封 PTP」)

④ドーム型易開封PTP



Dose Guard (CRSFラベル) <特許取得済>



①ラベルをめくる



②めくった後の状態



③錠剤を押し出す

4. コンプライアンスへの取り組み

- ・当社は消費者様へ直接商品供給されるお客様と密接な関係にある企業として、命に関わる商品の一部を提供する立場からお客様のご要求を理解し、安全且つ、品質の高い商品やサービスを提供できなければなりません。
- ・2012年の取り組みとして、多くのお客様からの要求に対応する為、従業員全員を対象にCSRに対する理解を深めることを目的にカナエ全事業所でCSR勉強会を開催しました。内容としましては、CSRの概略の説明と、お客様から求められる要求事項の重要性や、私たちの役割について情報の共有化を図りました。



<下請法対応>

当社のお取引先様の中には下請事業者該当のお取引先様が少なくありません。そのため、購買部門、あるいは外製担当部門では、下請法の外部セミナーに参加し、下請法をマスターするようにしています。本年も例年同様、新しく配属された新人の方や、所属が変わった方が受講し、常に全体のレベルアップを図っています。

<匿名でも連絡可能な窓口の設置>

平成20年2月より、社外の専門機関と契約し、通報・相談窓口サービスを導入しています。健康相談をはじめ法律相談、コンプライアンス、セクハラ、パワハラについて相談を行うことができます。また、倫理規程を制定し、人権や個人情報、反社会的勢力との関係遮断、贈収賄などの禁止を定めています。産業医の先生の相談室、社内報への掲載などにより、活用の啓蒙も行っています。

5. 理念教育

企業理念の浸透を目的にプロジェクトチームで議論し冊子（『鼎心』）としてまとめ、今期理念手帳を全社員へ配布して共有化を図ることにしました。カナエの「企業理念」「社訓」「スローガン」を中心に、長年培ってきた先達の教えが理念に適っていることへの理解ができる教育の道具として共有化し、同じ方向に向かって全社一丸となって進んでいくことで会社自体を強くしていけるようにします。コンプライアンス教育のツールとしても活用してまいります。



理念手帳『鼎心』

6. 「みちのく未来基金」への協賛

「みちのく未来基金」は東日本大震災によって親を亡くされた遺児の方々に向けてカゴメ株式会社様、カルビー株式会社様、ロート製薬株式会社様の3社が発起企業となり、団体、企業、個人の方々より寄付を募り、高等学校以降の進学希望者へ進学支援、人材育成などを目的に次世代の子供たちを支える基金として活用されます。当社も少なからず震災の影響を受け、痛みを経験した企業です。奨学金事業の寄付支援企業として10年間に亘り継続的に協賛いたします。

平成24年4月には1期生となる96名の学生が進学され、新たな門出を迎えられました。

7. 地域社会への貢献

清掃活動

昨年より入居しています「クリスタルタワー」が主催する「美しい街づくり運動」に参加継続しています。クリスタルタワーはすぐ隣に大阪城公園があり、オフィスのメンバーが交代で公園周辺までごみ拾いを続けています。



定期市道側溝清掃実施

栃木工場では毎年定期的に工業団地内の工場周辺の側溝を一齐に清掃を行っています。今年は7月11日に実施しました。

1. 働く環境

世界最大の試験認証機関である Intertek 社の「Workplace Conditions Assessment (職場環境評価)」を受けました。「労働、賃金・労働時間、健康・安全、経営体制、環境」の5つの観点から客観的に監査され、結果として当社はスコア 100 点（満点）をいただきました。



2. 理念実践プロジェクト

企業理念を浸透させて、カナエのコーポレートメッセージである「お客様に喜びと感動を感じて頂ける会社になる」を実現できるよう、「理念実践プロジェクト」という形で推進しています。

その一環として、2011年より、社内で「さすが」と思えるような行為などがあれば、掲示板に投稿して共有化し、他の社員も参考にできるようにしています。それを積み上げることで、お客様や社会に対しても、有益な行動ができるようになって考えています。

3. HS（健康・安全衛生）活動

2011年にEMSと労働安全を会社として統一した組織にするため、HS組織を策定しました。従来は労働安全については、労働安全衛生法にもとづいた安全衛生委員会の活動を事業所ごとに行っておりましたが、新たにカナエ安全衛生基本方針にもとづき労働安全衛生マネジメントシステムを構築し、継続的な改善に取り組んでいます。

安全衛生委員会の運営は、各事業所作成の活動計画に基づき運営されていますが、前期より社内にて統一性をもたせることを目的に、活動計画を全社共通のものとし、それに付随する形で事業所独自の計画を進めていくことになりました。また、半期に一度合同会議としてテレビ会議にて各事業所安全衛生委員会をつなぎ、活動計画の進捗や各事業所委員会における懸念事項等について意見交換を行い、委員会全体として情報の共有化も図っています。

4. 防災勉強会

当社では、東日本大震災を契機にBCPの策定、運用に取り組んでいます。その中で、従業員に対して必要な情報をまとめた「防災マニュアル」と、緊急時の安否確認方法をまとめた「緊急時利用カード」を作成し、全従業員に配布しました。

その上で、各事業所にて防災勉強会を開催し、「防災マニュアル」作成の趣旨や内容について説明会を開催いたしました。



5. 災害への備え

災害等の発生など万が一に備え、従業員の安全確保のために災害備品の準備を進めています。また、大規模災害等が発生した際には、帰宅困難者の発生も懸念されます。そのため、各事業所に、3日分を目処とした非常食と飲料水の備蓄を行いました。備蓄食料の有効期限は5年となっており、5年後に入れ替えが必要になりますが、フードバンクへの寄付など環境に配慮した入れ替えができるよう検討してまいります。



<導入備品の一部>
工場・各事業所他

6. 次世代育成

当社では、次世代育成支援対策推進法に基づき、育児と仕事を両立しながら働くことができる環境の整備を進めています。

2012年は次世代育成の対象と中学就学の始期に達するまでの養育をしている者が101名おり、そのうち89名が7月1日～8月31日までの間半日以上の有給休暇を取得しました。取得日数は合計222日となっており、全体の平均は2.2日、休暇取得者の平均は2.5日、対象者に占める休暇取得者の割合は88.1%でした。

7. 社員会イベント

従業員の福利厚生にも力を注いでおり、社員会主催のイベントに積極的な支援を行っています。本社と神戸工場では、5月には地曳網、10月にはボーリング大会を、東京支店では、9月に日帰り旅行、栃木工場では、7月に演劇鑑賞を実施し、大いに盛り上がりました。



地曳網風景

8. クラブ活動紹介

当社では、クラブ活動を通じて信頼関係や結束力などを高める目的で支援を行っており、野球部、テニス部、フットサル部、釣り部が活動しています。

フットサル部においては、毎年12月3週目の日曜日に、事業所単位で争う「カナエカップ」が開催され、今期も熱戦を繰り広げました。



フットサル部



釣り部

今後のCSR活動の展開

近年、お客様より「企業の社会的責任」の活動状況についてのアンケートを多くいただくようになりました。『CSR購買』という言葉があるように、「企業の社会的責任（CSR）」はサプライチェーン全体で取り組まなければならない重要な課題です。

お客様が、当社に求めておられる「企業の社会的責任（CSR）」への取り組みレベルで満足することなく、お客様の期待を超える取り組みが必要だと考え、当面の重点活動として以下の6項目に取り組んでまいります。

重点活動

① 品質保証体制及び安定供給

「安全・安心」な製品をお届けするということは、最も重要な当社の責務です。今後も品質保証体制を強化し、その実現に向けて取り組んでまいります。また、継続的・安定的に供給し続けることも同様だと考えています。

② コンプライアンス教育

当社には、すでに「倫理規程」や「情報セキュリティ規程」などルールは揃っています。当然ながら、規程を策定しただけでは不十分です。57期作成した当社の理念を解説した手帳『鼎心』をツールとして、企業理念の浸透を図ります。カナエ社員として高い倫理観を身につけられるよう、継続的に教育を実施してまいります。

③ 事業継続計画マネジメントシステムの確立

2011年3月に発生し、未曾有の被害をもたらした「東日本大震災」を契機に、当社でも事業継続計画（BCP）を策定いたしました。今後は、本当に必要になった時に、咄嗟に活動できるよう事業継続計画に基づく訓練を繰り返し実施する必要があります。また、事業継続計画マネジメントシステム（BCMS）として運用できるよう、ISO22301などを参考に体系化を進めてまいります。

④ 新しいパッケージの開発力・国内外からの調達

当社は、ビジョン2020に『新しいパッケージで市場創造型企業 No.1』と謳っています。単に新しいというだけでなく、社会に貢献できるパッケージの開発・調達に取り組んでまいります。具体的には、(a) 消費者課題（エコパルデザイン等）の領域、(b) 環境負荷低減商材の領域で自社での形態開発、お客様・お取引先様との共同開発、海外情報を収集し、社会に貢献してまいります。

⑤ 新しいパッケージの提案

いくら優れたパッケージを開発しても、お客様に採用していただかなければ意味がありません。環境面においては、「環境包装プロジェクト」の位置づけを再考し、当社としての提案力を高めてまいります。

⑥ 廃棄物の排出量が少ない“環境工場”

当社の工場においては、ミスロスの少ない製造による廃棄物排出量の最小化を実践し、「環境工場」と公言できるよう取り組んでまいります。また、工場から排出される廃棄物についても、新たなリサイクル方法を模索し、より原料に近い形でのリサイクルを進めてまいります。

会社概要 / 事業概要

■会社概要

株式会社カナエ

設立 昭和31年3月29日

資本金 3億5,381万4,600円

代表取締役社長 岡本邦昭

従業員数 398名（平成24年10月現在）

売上高 241億円（平成24年10月）

営業品目 包装資材・包装機械の開発販売、包装受託加工、受託製造

所在地

本社	大阪市中央区城見1丁目2番27号 クリスタルタワー23階	TEL 06 (6945) 1223
東京支店	東京都中央区八丁堀4丁目11番5号	TEL 03 (5566) 4811
名古屋営業所	名古屋市北区田幡2丁目5番12号305号室	TEL 052 (915) 3371
富山営業所	富山市布瀬町南2丁目10番14号	TEL 076 (492) 8708
流通センター	大阪市城東区今福西6丁目9番27号	TEL 06 (6932) 6231
包装技術開発研究所	神戸市中央区港島南町5丁目2番7号	TEL 078 (306) 6046
神戸工場	神戸市中央区港島南町5丁目2番7号	TEL 078 (306) 6041
栃木工場	栃木県真岡市寺内599番4号	TEL 0285 (80) 1881
愛媛工場	愛媛県四国中央市川滝町下山2326番5号	TEL 0896 (59) 4326



Life Care & Produce

